＜ジメチルスルホナゾⅢ吸光光度法＞
検量線から求めた発色溶液中の硫黄量
A＝　ミリグラム
標準状態における乾燥試料ガス量
V＝　リットル
硫黄全量
$=\frac{A\times 25}{V}=$　グラム／立方メートル

＜イオンクロマトグラフ法＞
硫酸イオン濃度
a＝　ミリグラム／ミリリットル
空試験で求めた硫酸イオン濃度
b＝　ミリグラム／ミリリットル
標準状態における乾燥試料ガス量
V＝　リットル
硫黄全量
$=\frac{0.333\cdot(a-b)\cdot 250}{V}$
＝　グラム／立方メートル

＜微量電量滴定式酸化法＞
分析試料中の硫黄表示値
B＝　ナノグラム
試料注入量
V＝　ミリリットル
試料温度（室温）
t＝　℃
平均補正係数
F＝
硫黄全量
$=\frac{B}{V\times\frac{273.15}{273.15+t}\times F}\times 10^{-3}$
＝　グラム／立方メートル

＜メチレンブルー吸光光度法＞
使用した吸収瓶
吸収瓶、全量発色瓶
検量線から求めた発色溶液中の硫化水素量
A＝　ミリグラム
標準状態における乾燥試料ガス量
V＝　リットル
吸収瓶を使用した場合
硫化水素
$=\frac{A\times 5}{V}=$　グラム／立方メートル
全量発色瓶を使用した場合
硫化水素
$=\frac{A}{V}=$　グラム／立方メートル

＜酢酸鉛試験紙法＞
反応試験
変色を認める
変色を認めない

＜炎光光度検出器付ガスクロマトグラフ法＞
硫化水素＝　グラム／立方メートル

＜インドフェノール吸光光度法＞
標準状態における乾燥試料ガス量
V＝　リットル
一点検量線の場合
試料溶液の吸光度
A＝
アンモニアの標準液の吸光度
As＝
アンモニア
$=\frac{\frac{A}{As}\times 0.25}{V}$
＝　グラム／立方メートル
多点検量線の場合
検量線から求めた発色溶液中のアンモニア量
A＝　ミリグラム
アンモニア
$=\frac{A\times 25}{V}$
＝　グラム／立方メートル

＜硝酸銀―硝酸マンガン試験紙法＞
反応試験
変色を認める
変色を認めない

＜イオンクロマトグラフ法＞
アンモニウムイオンの濃度
a＝　ミリグラム／ミリリットル
空試験で求めたアンモニウムイオンの濃度
b＝　ミリグラム／ミリリットル
標準状態における乾燥試料ガス量
V＝　リットル
アンモニア
$=\frac{0.944\cdot(a-b)\cdot 250}{V}$
＝　グラム／立方メートル

＜紫外蛍光法（バッチ法）＞
分析試料中の平均硫黄表示値
B＝
試料注入量
V＝　ミリリットル
試料温度（室温）
t＝　℃
一点検量線法を使用した場合
校正係数
K＝
硫黄全量
$=\frac{B}{V\times\frac{273.15}{273.15+t}\times K}\times 10^{-3}$
＝　グラム／立方メートル
多点検量線法を使用した場合
検量線の勾配
Ss＝
硫黄全量
$=\frac{B}{V\times\frac{273.15}{273.15+t}\times Ss}\times 10^{-3}$
＝　グラム／立方メートル

＜紫外蛍光法（連続流通法）＞
二酸化硫黄標準ガスで校正した場合
測定値
M＝　ミリグラム／立方メートル
触媒効率
E＝　％
硫黄全量
$=\frac{M}{1000\cdot\frac{E}{100}}$
＝　グラム／立法メートル

硫黄化合物混合ガスで校正した場合
測定値
M＝　ミリグラム／立方メートル
硫黄全量
$=\frac{M}{1000}$
＝　グラム／立法メートル

備考　1　定量はいずれかの方法で測定した結果を記載すること。ただし、反応試験において変色を認めない場合には定量を行う必要はない。
2　微量電量滴定式酸化法、紫外蛍光法（バッチ法）、紫外蛍光法（連続流通法）、酢酸鉛試験紙法、炎光光度検出器付ガスクロマトグラフ法及び硝酸銀―硝酸マンガン試験紙法については、本様式中「標準状態における乾燥試料ガス量」を求めるための測定値及び計算値を記載する必要はない。

附　則

この省令は、平成二十三年十一月二十一日から施行する。